

よなご・かえる通信



2009
JULY

よなご・かえるプロジェクト始動!



よなご かえる通信



今の米子が嫌いな訳ではない。どちらかと言えば好きだ。米子が好きだから、都会の生活から逃れて帰ってきた。米子のまちなかは、小さいながら美術館や図書館もあるし、百貨店やヒマチだつてある。市役所、映画館、駅、スーパー、コンベンションホール、ファッションビル、ラーメン屋……たぶん、生活するのに必要な機能は、何もかも揃っているまちなか。

しかし、何か物足りない。

子供の頃、両三柳に住んでいた私は、まわりの同級生が皆そうであったように、年数回、高島屋の大食堂でお子様ランチを食べる事が人生最大のイベントであった。もちろん、チキンライスの上の日の丸の旗は、戦利品として毎回持ち帰った。

夏の土曜夜市には、なぜか、普段は着てはいけない、ヨソイキの服を着せられ、母と妹の三人でバスに乗って米子へ出るのが楽しみだった。

小学生の頃、まちなかに引越してきてからは、すぐに「トカイの子達」とも馴染み、毎日毎日、野球とサッカー、それにそろばん塾と英語塾で明け暮れた。

英語塾に行くふりをして、旧加茂川でフナ釣りをした時期もあった。風呂でフナ釣りをした時期もあった。風呂でフナ釣りをした時期もあった。

い、父にそのフナの大きさを自慢し、サボっていることがばれてしまったが、父は怒りもせず、次の日には旧加茂川で二人一緒に竿を垂れた。

高校卒業後、米子を離れ、二〇年間を都会で過ごし米子に帰ってきた。

あれ！ 何か違う…

賑わいが無い、活気がない、店がない、人がない…なぜ？ それは、どうやら米子だけではないらしい。地方都市のまちなかのほとんどが同じ状況のようだ。

しかしながら、今、四日市町がアツイ。法勝寺町がウゴキダシタ。下町の旧加茂川沿いもゲンキだ。少しずつではあるが、確実に何かが変わろうとしている。

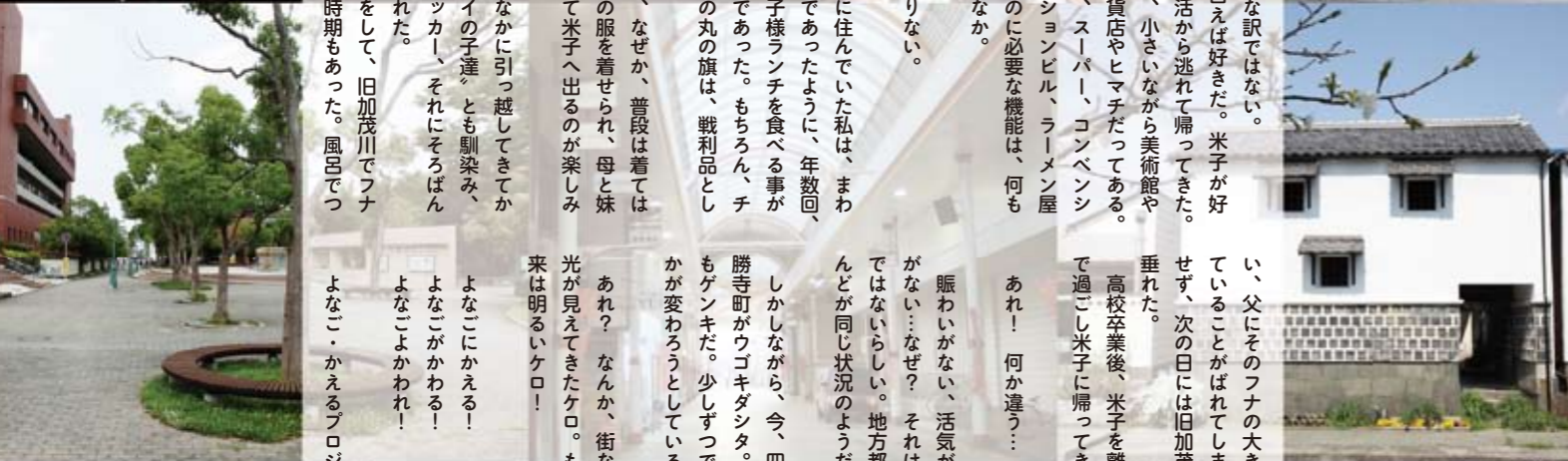
あれ？ なんか、街なみの向こうに大きな光が見えてきたケロ。もしかして、米子の未来は明るいケロ！

よなごにかえる！

よなごがわかる！

よなごよかわれ！

よなご・かえるプロジェクト!?



よなご・かえるプロジェクト!?

駅や市役所、史跡に美術館、カフェに本屋に服屋さん、古くからその土地で暮らすのに必要な機能をつちかてきたまちの中心部≒まちなかは、その街の顔ともいえる場所です。米子も文化や歴史、人に育まれ、思慮深く、オトコマエ(?) ない顔をしています。

そんな米子のオトコマエな「顔」も、ひとの顔が経験を積み重ねてかわっていくように、時代とともに成熟し、お肌の曲がり角をむかえています。

そこで、米子の「顔」に、うるおいを与え、さらに明るく元気で朗らかな「米子の顔=米子のまち」にしようと考え、本誌を発行しました。

本プロジェクトを媒介として、手に取っていただいた皆さんと米子のまちなかとのコミュニケーションツールとなれば幸いです。

米子にかえる>>>若者が米子にかえってくるような魅力あるまちにしたい
米子をかえる>>>衰退が進みつつある米子がかわる

中心市街地≒まちなか

まちにかえる! まちがかわる?
まちでかなえる!

米子市中心市街地活性化基本計画≒よなご・かえるプロジェクト!?



米子市中心市街地活性化基本計画が認定を受けました

「米子市中心市街地活性化基本計画」が、平成20年11月11日付けで内閣総理大臣の認定を受けました。

山陰では松江市(平成19年7月認定)、鳥取市(平成19年11月認定)に次いで3番目となります。

今回の認定により「改正まちづくり三法」に基づく国のいろいろな支援制度が利用できるようになりました。それによって、基本計画に盛り込まれた事業を効果的に推進することが可能となります。

しかし、ようやくスタートラインに立ったところです。

盛り込まれた64事業のうち、半数近くを民間主体と行政が連携した事業となっています。

基本計画を実のあるものにしていくため、皆様のご協力をお願い致します。

中心市街地活性化基本計画とは?

まちなかを活性化させるための方針や施策・事業などを定めたものです。この計画が国から認定されると、国のさまざまな支援策を活用することができます。

米子市の目指すコンパクトシティ構想

この秋！ にぎわいトライアングルゾーンに
幅広い年齢層が集う施設が次々と誕生します。

中心市街地活性化の背景

米子のまちなかは、古くから商業、業務、居住等の都市機能が集まり、長い歴史の中で文化、伝統をはぐみ、様々な機能を培ってきた「まちの顔」ともいえる場所です。また、地域の経済や社会の発展に重要な役割を果たしてきた地域でもあります。しかし、全国的に、公共施設等の郊外移転等都市機能の拡散、車社会の進展、大規模集客施設の郊外立地、居住人口の減少等中心市街地のコミュニティとしての魅力低下、まちなかの商業地区が顧客や住民ニーズに十分対応できていないことなどにより、まちなかの衰退が進みつつあります。

これらの事は、米子市においても同様な状況にあります。米子市では、衰退の進む中心市街地の活性化を図ることを目的に、学識経験者や公募委員などによる検討委員会での審議、パブリックコメント、市民説明会の実施、そして関係団体や国との協議などを経て策定した計画が、平成20年11月11日に内閣総理大臣から認定を受けました。

コンパクトシティ？

コンパクトシティとは、若者やお年寄り、障がいのある方も、だれでもが徒歩や自転車を中心に、車にたよることなく生活できるよう、まちなかに、住宅や商店、学校、病院、公共施設などをコンパクトに集中させたまちのことをいいます。



① 四日市町大型店舗再活用事業 (SKYビル)

米子の代官山をめざして！

旧今井書店の建物を再活用し、ブティックや雑貨店などの店舗の他、「室内公園」と名付けたスペースを設け、お母さんにもやさしい、豊富な自然や親水空間を活かしたテナントビル。



② 法勝寺町商業環境整備事業

「明るくて元気なまち・陽のあたるまち 法勝寺町」をめざして！

約40年が経過し、老朽化して危険な状態のアーケードを撤去し、空き店舗の活用の他、通りに風鈴やのれん、裸電球などを設置し、季節感や昔懐かしい商店街を演出します。



③ 三連蔵ショップ & ギャラリー事業

築120年の白壁土蔵がヨミガエル！

米子城の外堀沿いに建っていた築百二十年の蔵を改造し、おしゃれな飲食店や日替わりカフェ、セレクトショップなどのテナントとギャラリー「忘路庵」の複合施設。



④ 地域情報拠点施設運営事業 (ダラス・クリエイティブ・ボックス)

DARAZの集大成！ 商店街を文化のへそに！

若者の活動拠点を設け、起業家のハード、ソフト両面からのサポート。カフェや物販店の他、地域ブランド研究所、情報発信のサテライトスタジオ、地元の偉人を紹介するミュージアムなどの複合施設。

にぎわい トライアングル ゾーン MAP



人が集い にぎわうまちをつくる

- ① 四日市町大型店舗再活用事業
書店跡の建物を活用した、物販・飲食・サービス複合店舗の整備。
- ② 法勝寺町商業環境整備事業
アーケード撤去、道路や建物の外観の整備、下水道整備等商業環境整備を行ない、「歩いていてどこか懐かしくなる通り」として整備
- ③ 三連蔵ショップ&ギャラリー事業
法勝寺町商店街に近接する蔵に物販、ギャラリーを誘致し、核店舗として活用。
- ④ 地域情報拠点施設運営事業
地域の文化・商業などの創業支援や地域情報発信を行なう施設の整備・運営。
- ⑤ チャレンジショップ事業
新しく商売を始める者に、低コストで試行的に商売を実践できる店舗を設置し、新規商業者を支援。
- ⑥ 鳥取大学医学部サテライトキャンパス事業
鳥取大医学部の教養課程の移転に併せ、サテライトキャンパスを設置。
- ⑦ JR米子駅バリアフリー化推進事業
エレベーター、エスカレーター等を整備し、駅構内のバリアフリー化を実施。



まちなかの区域

この計画では、交通拠点であるJR米子駅周辺、古くから形成されている商店街、都市的住宅の立地が進む錦町周辺、歴史や文化・自然資源が残る寺町周辺、米子城跡、旧加茂川を含んだ約300ヘクタールの区域を「中心市街地とまちなか」に設定し、「人が集まり、歩いて楽しむ、元気に暮らせる、中心市街地」を基本コンセプトに、継続事業を含め64事業を実施することで、中心市街地の活性化を図っていくこととしています。

人が集まり、
歩いて楽しむ、
元気に
暮らせる
中心市街地



まちなかの区域内が
対象となる事業
⑥ ⑪ ⑫ ⑬ ⑮ ⑯



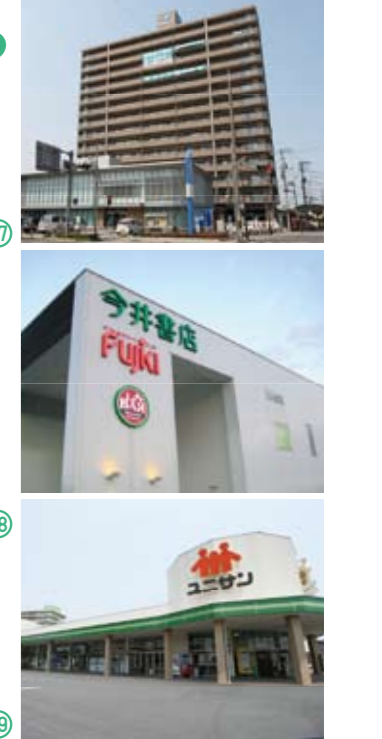
歴史や文化、自然に 触れ合えるまちをつくる

- ⑧ 旧加茂川・寺町周辺街なみ環境整備事業
歴史的景観の保全・継承、住環境の向上を図る。
(建築物の外観修景補助、道路整備など)
- ⑨ 史跡米子城跡整備事業
国史跡「米子城跡」の史跡整備。
- ⑩ 図書館、美術館、山陰歴史館整備事業
中心市街地にある図書館、美術館、山陰歴史館の施設や機能を整備拡充。また、山陰歴史館が所蔵する2千点にのぼる古代織の展示の充実。
- ⑪ まちの案内看板設置事業
中心市街地の南北の玄関口となるJR米子駅とJR後藤駅からの動線を中心に、主要な移動経路に案内板を設置し、誰にでもわかりやすく市街地を案内・誘導。



住みたくなるまちをつくる

- ⑫ まちなか居住支援事業
市外から中心市街地へ転入し、良質な戸建、分譲住宅を取得する世帯に対し、建物の固定資産税相当額を助成。
- ⑬ 共同建替え等促進事業
敷地が狭小のため単独建替えが困難な場合等、隣接地と共同で建て替え、一定戸数以上の住宅を供給する事業に対し、調査設計計画費等を助成する制度の創設。
- ⑭ やらいや米子・平成ルネッサンス事業
高齢者専用賃貸住宅を核とした複合施設の建設。
- ⑮ 介護サービス付共同住宅事業
高齢者や障害者を対象とした介護サービス付共同住宅を区域内で開発・運営。
- ⑯ だんだんバスの運行
市中心部の1周約9.2キロを45分で片方向に循環するコミュニティバスの運行。
- ⑰ 民間マンション建設
- ⑱ 今井書店錦町店多目的交流空間運営
- ⑲ 生鮮食料品店出店事業



よなご・かえるプロジェクト の主な事業

ここにあげた事業は全**64**事業の一部です。
よなご・かえるプロジェクトは、まだまだ続きます。おたのしみに！

be man power

まちをかえるのは、やっぱり人の力。
米子のまちを元気にする、米子人を紹介します。



ここには仲間もいるし
これからも守っていききたい。
自分が育ったまちだから。

A1 法勝寺町商店街に出店することで、商店街の中心として活動したかった。商店街の中に既存店はあるが、心機一転、新しい気持ちで取り組みたいと、新規出店を決意。「ここには、古くからの仲間もいるし、一緒になって法勝寺町商店街を守っていききたいと思っている。」

A2 現状の商店街は、暗い・古い・危ない…、路面が滑って危険だから近寄りたくない…と言う人もいます。まずは、その印象を払拭したい。アーケードを撤去することで、商店街に明るさを取り戻し、太陽や自然と共に生活するステージを創る。

まちなかががんばることが、米子経済の底上げに繋がると信じている。自分ひとりではできないが、周りに仲間がいたし、商店街の後輩達も米子に帰って来た。国や米子市の施策も一致した。ちょうどいい機会だった。現在、並行して進んでいる喜八プロジェクト計画や本通りのSKYビル計画とは、対立するのではなくうまく連携し、コミュニケーションと情報交換を密にしながら、共に切磋琢磨していききたい。中心市街地活性化基本計画が、国の事業だから、市の事業だからと言って、夢や発想を曲げたくはない。自分達が育ち、自分達が育てる商店街なんだから。

1963年5月、鳥取市生まれ。2歳から米子で育つ。市内の高校卒業後、単身でアメリカのボストンへ音楽留学し、3年間、フルートを学ぶ。昭和61年に東京へ戻り、アルバイトをしながらプロの(ジャズ)フルート奏者を目指した。その頃に出合った奥様と結婚。14年前に太田眼鏡の跡を継ぐために米子へ帰省。「太田眼鏡」の発祥は鳥取市。現在は、本通り商店街と米子しんまち天満屋、松江市で3店舗を営業中。この秋、法勝寺町商店街の善五郎蔵へ、全く新しいコンセプトの眼鏡屋をオープン予定。

MEMBER FILE 01

太田和宏さん

太田眼鏡
代表

46歳



Q1 まちなか(中心市街地)へ
出店しようと思ったきっかけ

鳥取県らしい
オリジナルなまちがいい。
都会のまねはしたくない。

A1 もともと商店街で展開していたが、店舗の老朽化に伴い現在の店舗に移転。商店街を離れたくなかった。計画中のSKYビルは、オーナーの「自然を活かす」といった発想が一致した。30台後半のある時、突然、植物や木だとか、春になると芽が出たり種ができる仕組みとか…気になりだした。自分自身が、「生命力」や「自然」に大きな影響を受けていることを感じる。そのことを新しい店舗で具現化できないかと考えている。

A2 人工的なまちにはしたくない。都会のまねもしたくない。オリジナ



ルなまちがいい。森のように自然がいっぱいで、鳥取県のまちらしいまちになればいい。米子のまちりの方向性を明確にして、それぞれがバラバラにならないように統一感を持ってほしい。5年後、10年後につまらないまちにならないように、上っ面だけでなく、しっかりとしたベースがないといけな。

1970年2月、境港市生まれ。米子の高校を卒業後、広島へのジーンズショップに就職。そこで7年間、バイイングや店舗経営などを身に付けた後、米子の専門学校でより専門的な知識を学び、在学中に現在のセレクトショップgrass onionを本通り商店街に開店。その後、現在の店舗へ移転。店名の「grass onion」は、大好きなビートルズのジョン・レノンの曲にちなんだ。個性的なセレクトが多くファンを持ち、山根さん自ら手がけるイビツミウムブランドは、広く仙台や広島でも展開中。商品のセレクトの視点は、ありふれた日常に刺激になるような、コーディネートのポイントとなるような商品を意識している。

MEMBER FILE 02

山根大樹さん

grass onion
代表

39歳



Q2 まちなか(中心市街地)への期待



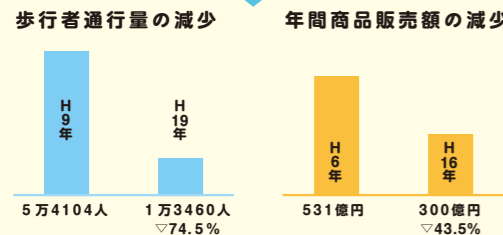
中心市街地活性化の目標と数値目標

中心市街地を巡る状況

県西部地域の中心。古くから交通の要衝で、歴史・文化資源やさまざまな都市機能が集中。

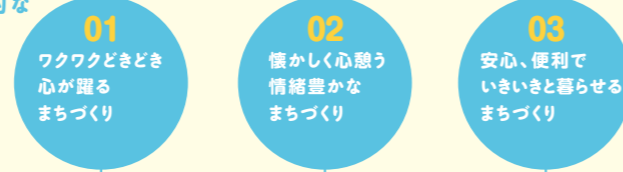
空き店舗率30%、営業店舗の4分の3に後継者がいない等商業機能が衰退。歩行者通行量が平成9年からの10年間で4分の1に減少するなど、にぎわいも減退。

中心市街地内に立地する大型店舗の存続のための支援、郊外の大規模開発抑制など。



基本的な方針、目標、目標値

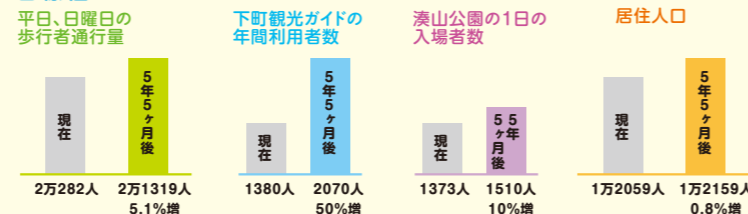
基本的な方針



目標

人が集いにぎわうまちをつくる
歴史や文化、自然に触れ合えるまちをつくる
住みたくなるまちをつくる

目標値



まちづくりのターニングポイント！
元気な市民を支えたい！

米子市総合政策課中心市街地活性化推進室

現在の米子市は、中心市街地が衰退し、商店街に元気がない。しかも、少子高齢化はどんどん進行する。しかしながら、今回の計画を進めていくなかで感じているのは、米子は、他の地域と違い、ヒトとマチのポテンシャルが高いということ。

今、将来の米子の姿をどうするか、どんなまちにしていこうかを考えている。どこに行っても同じ風景のまちではなく、まちの個性を創る1つの手法が、今回の中心市街地活性化基本計画ではないかと考えている。長い米子市政のなかで、ある意味大きなまちづくりの転換期であり、ターニングポイントでもあり、非常にやりがいのあるポジションで仕事をできることがうれしい。

一方で、事業が進むほどに様々なボトルネックも出てくる。そのボトルネックを民間の方々と共に解消することが私達の役割。ポテンシャルの高い皆さんと行政がまともな力となれば、それは大きな力となり、きっと米子のまちは大きく動きだす。

“道”に愛称をつけることで 市民や観光客の意識が変わる！道に愛着がわく！

内閣府・地方の元気再生事業として「大山パークウェイ」のプロジェクトを昨年秋から進めてきましたが、その取り組みの中から見えてきたことがいろいろありました。その一つは、“道”に愛称をつけることで、市民、観光客の意識が変わるということ。地域のブランドやシンボル、馴染みのある名前などを併用することによって愛着が大きく変わってきます。

米子市内でもこんな風に表現すればいいのに、と思うものがあります。例えば、「公会堂通り」、「医大通り」、「加茂川通り」…。これまでであるようで、実際にはない呼び名です。説明するまでもないですが、地域のプライドをタイトルにしたものです。

また、米子の中心市街地のメイン道路を「9号線」と呼びますが、これも記号でなくて「市役所通り」とか「高島屋通り」とか「ガイナレ通り」とかすれば、市民意識が大きく変わってくるのではと思います。

ゾーンで活性化ということはよく耳にしますが、まず、軸になる道とその愛称を決めて、その道を中心に目に見える形で活性化の組み立てをしていけば、クッキリわかりやすくなるでしょう。その愛称を通り沿いの店舗などがどんどん使うことになると、活性化のスピードも速くなるようにも思います。

無機質な時代の流れの通称（例えば、産業道路）で表現することから、地域の誇りや思い、メッセージをそこに託せば、地域は間違いなく変わっていくのではないのでしょうか。

NPO法人大山中海観光推進機構 理事長 石村 隆男

山陰の自然は美しい。実は米子のまちはもっと美しい。 9号線を歩いて、米子のまちをリアルに体験してほしい！

米子のまちは、数年前の国道9号の電線・電柱地中化によって格段にきれいになった。しかし、その事に気がついていない市民は少ない。海があり山がある山陰の自然は確かに美しい。実は、松江市よりも鳥取市よりも米子のまちは美しい。近代的な美しさを備えたモダンビューティーな米子のまちに市民は気が付いていない。高島屋前から商工会議所前までの国道9号線をホコテンにしてみてもどうだろう。高島屋前の曲線やそこから見える米子城跡の石垣は、決して他のまちでは見ることのできない景観である。

中心市街地活性化とは、大勢の市民にまちなかを歩いてもらうこと。米子のまちには、実は、美術館があり歴史資料館がある。粋なレストランだってお洒落なブティックだっただくさんある。楽しければまちにヒトは集まる。美しいまちを知れば、米子に対する誇りや愛着も持てる。車を降りてまちを歩こう。車を止めてみんなで9号線を歩こう。そして、リアルな米子を体験しよう。

米子市中心市街地活性化協議会 監事 中ノ森 寿昭

よなご・まちなか
コラム
第1回

中心市街地活性化の 最後のチャンス！ スピード感を持ち連携を！

米子市中心市街地活性化協議会 会長

坂口 清太郎

国の法改正により、今回が米子市の中心市街地活性化の最後のチャンスと捉え、早々に中心市街地活性化協議会を立ち上げてスピーディーに稼働させてきました。多くの人たちの中心市街地への期待を形にするため、協議会委員、行政、商業者をもとより民間事業者、文化団体、市民の意見を反映した基本計画が、今、まさに動き出しました。

中心市街地が寂れることは、これまでのインフラ投資を無駄にしてしまうことであり、行政経営も含め米子市の衰退を意味します。これまで、幾度となく商店街活性化計画が作られましたが、そのほとんどが実行には至らず計画のまま終わっていました。

しかし、今は違います。商業者や民間事業者は、まちなか居住や空き店舗活用を含む店舗開発に乗り出し、多くの若手経営者も今回の計画にそって顔を出してきました。

一方、行政も図書館や美術館などの機能拡充に乗り出し、米子駅のバリアフリー化や下水道整備などの生活基盤整備も進めます。それは、この中心市街地活性化基本計画が、行政と民間、市民が一体となって作成したものであるからに他なりません。

残された基本計画期間はあと4年と9ヶ月。これからも、スピード感を持ちながら、多くの人たちが協力、連携し計画を進めることにより、「人が集まり、歩いて楽しめ、元気に暮らせる中心市街地～生活充実都市米子～」を実現し、米子市にとどまることなく、近隣市町村の皆さんにも享受していただきたいと思います。新しい米子の息吹を感じる今日この頃です。

